

# THIS MONTH TOP NEWS

# 情報カタログ

巻ごと話題沸騰の読者参加型情報コーナー。読者・フェイマーズガ、ショップスタッフガ、そして街の情報通ガが発信する  
正確正統の口コミ情報!! アナタの投稿も受け付け中だ

## ●京統、川事情●

京都の暮るひと山は切っても切り放せぬもの、とは巻頭の特集にてご説明したとおり。さらに言えば、鴨川、瀬川、高瀬川だけが京都の山じゃなぬわけて。巻頭にてご紹介しきれなかった川、そして山を味わら店々をここに紹介

### 高野川

鴨川を北上すれば出町柳で左右2本に。左手が鴨川の本流・賀茂川、右手が高野川。その高野川、京都から滋賀へ抜ける途中越付近に発する、蟹将りも察しめる自然が色濃く残る川

東に比叡山  
西に高野川  
座敷からする  
自然散策



創業420年の伝承料理、こってりした味わいの丹波産つくねいもを使った煮込みとろろは必ずいただきたいもの

### 山ばな平八茶屋

やまばなへいはちぢやや  
京都市左京区山端川岸町8-1 TEL.075-781-5008  
営業時間 11:30~21:00 (昼は~15:00) / 水休



東山山中から発し西に流れ、琵琶湖疎水に合流したのち分流、再度新橋あたりで鴨川へと合流する。長さ約9.3kmと短いながら、袖園新橋を風情タップリに流れる山ゆえ、集客率高し

### 白川

夏の日の記憶を  
呼び起こす  
手の届く距離  
を流れる川

「ませらぎ」見れば、華も靴下も放り投げて足を浸した。誰もが経験したあのワクワク、ドキドキする気持ち。夏の思い出は鮮やかによみがえる。足元までさらされた水面のガラス窓からさらさら流れる川面までの距離、約1m。手を伸ばせば「届きそう」ではなく「届く」。吹雪キリギリの店構えは、まさにせせらぎという言葉がピッタリくる白川ゆえ。川の流れるに足をつけてみることはできないけれど、記憶の中の水遊びが心地よさを完璧に仕立て上げるカフェがある。



焼き立てワッフルとアイスクリームを交互に積んで、華かいベリーソースをたっぷりかけたBerry Berry ワッフル850円。フルベリーとストロベリーに添付があったアイスの組合せはまさに絶品!



### Pooh's? プーズ

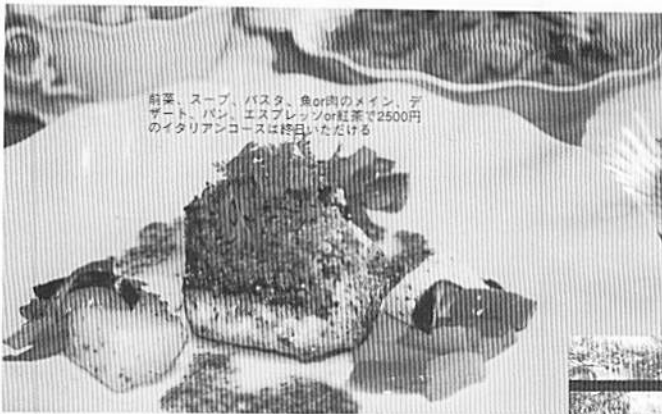
京都市東山区東大路通古門下ル松原町294  
TEL.075-541-3002  
営業時間 12:00~16:00 18:00~22:00 / 不定休



# 桂川

丹波山系から亀岡、京都を抜けて淀川へと合流する。上流部を大堰（おおひり）川、保津狭付近から渡月橋までを保津川、嵐山では再び大堰川と名前を変えつつ流れ、観光客シフトも高い川

近ければよし  
ではない特等席  
中程の席から  
眺める大堰川



老舗料理旅館「百楽荘」別館が、建物はそのままに、イタリアンレストランへと生まれ変わったのがエルバイタリアーノだ。ガラス格子の向こうに続く庭園、その先に顔をのぞかせる大堰川、岩田山に続く山並み、宿泊客だけのものから等しく開放された、一幅の絵。だがここでは、座るべき位置が重要だ。人気のガラス格子扉の扉は避け、ここはひとつ大広間を使ったフロア中程に席を取ってもらいたい。庭、川、山のベストバランスは、座れば納得のはずだ。



**ERBA ITALIANO**  
エルバイタリアーノ  
京都市右京区嵯峨天竜寺芒の馬場町8番地  
TEL.075-881-0004 営業時間 11:00~20:00/無休

# 宇治川

琵琶湖をその源に、桂山などど合流して淀川へと流れ込み、大堰川へと続く。途中にかかる宇治橋、山に沿って建てられた平等院など、絵画や詩歌にも登場することが多い風光明媚さ

宇治ならではの  
眺める川面は  
世界遺産、の  
絶景とは

ここ宇治に南下すれば、床は夏だけのものではない様子。1年中出された川床「浜座敷」がそれだ。冬の寒さは…と気を探むも、茶の名産地ゆえ季節を肌で感じて詫む寂を知る、ことかと納得も。一方川面に浮かぶ夏の風物詩は、宇治の鶴飼。たゆたう鶴飼船を眺め、川音をきく。目の前に広がる水墨画の世界は、町中では決して味わえない光景だ。さらに川を身近に感じて味わえ、屋形船にいたたく船料理も一興。



**鮎宗 あいそ**  
宇治市宇治塔ノ川3 TEL.0774-22-3001  
営業時間 11:00~20:00/不定休  
平均予算5000円 <http://www.wao.or.jp/aiso>



## 生まれも育ちも アメリカの スタバがもたらす イマドキの京風情



「あら、川と山が見えてメチャメチャ素敵！」。このセリフの主は京都観光に訪れたとおぼしき外国人のオバチャン。「ちよつと疲れたな」という雰囲気漂うオッチャンと2人組、ウキウキ京都満喫といった風に見受けられる。こゝまで読んで、「な〜んだ、お寺かどっかに行つたんでしょ」と思つてはまた早い。確かにここ京都には寺社仏閣がすうらり。感嘆の声を上げるスポットは、それこそオニのようにある。が、ここで注目したいのは、このセリフが口をついて出たのが寺社仏閣の中ではなくてスターバックスコーヒーの店内なのだ。ようやく関西にも上陸、美味しくて流行っているカフェではあるけれど…何故ゆえに？しかも、たった一人のオバチャンが言っているのではないのだ。記憶を手繰れば「昨日の朝も聞いたような…」「その前に聞いたときは、わざわざ外で待っているダンナさんを呼びにいったような…」と覚えていてるだけでも、かなりでてるのである。

実はこの現象、スターバックスコーヒー三条大橋店のみで発生しているのだ。？と思つたなら、一度店内に入ってみればスグに納得がゆく。窓側のカウンターからは渡川に鴨川、それから東山までもが一望のもとにできる。しかし京都に暮らす我々には、あまりにも当たり前の光景なのである。ところが、当たり前のそれが感嘆の声をあげる価値ある風景だった、というわけだ。「キレイな小川がさらさら流れて、大きい川には鴨がいたり、その向こうには山まで。ああ、これぞニッポンの絶景だわ」といったところか。

アメリカからやってきたコーヒーショップの中から見える、外国人から教わった、川のある風景。確かに「ああ、京都」であった。